

環境保全活動及び環境教育等に関する県民意識アンケート調査結果

アンケート期間：平成 30 年 5 月 23 日～6 月 8 日（17 日間）

調査目的：平成 26 年 3 月に改定した「長崎県環境教育等行動計画」を H30 年度中に見直す予定であり、環境保全活動等に取り組む県民の意識を新たな計画に反映することを目的に実施する。

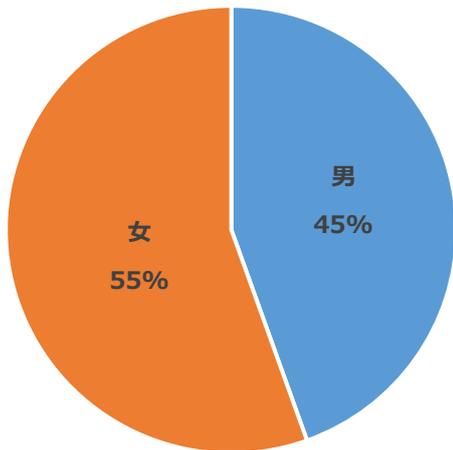
調査対象：ながさきWEB県政アンケート全モニター 342 名

回答状況：回答者 330 人（回答率 96.5%）

調査担当課：環境部環境政策課

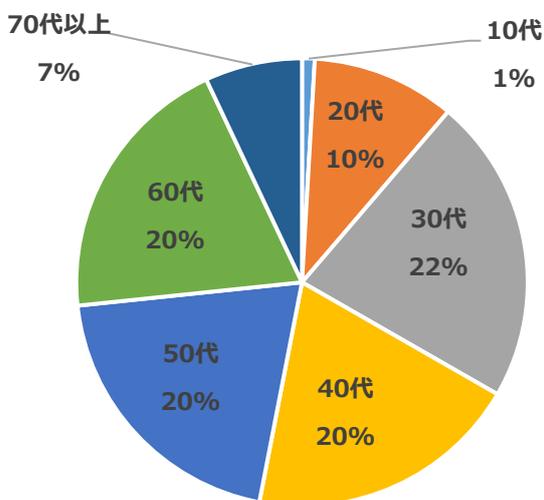
※小数点以下第 1 位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

■回答者の属性



男女構成割合

区分	人数	構成割合 (%)
男	147	45
女	183	55
合計	330	100

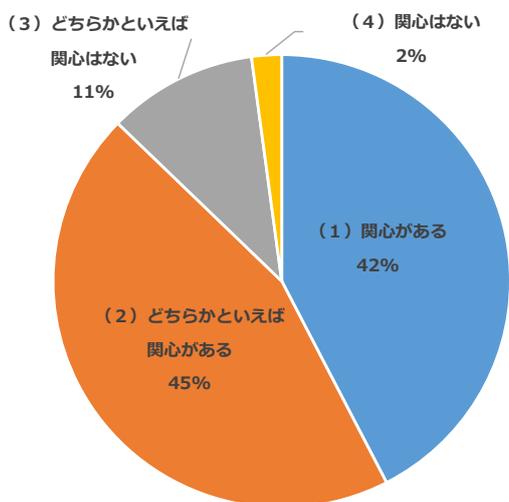


年齢区分別構成割合

年齢区分	人数	構成割合 (%)
10代	3	1
20代	34	10
30代	73	22
40代	65	20
50代	67	20
60代	65	20
70代以上	23	7
合計	330	100

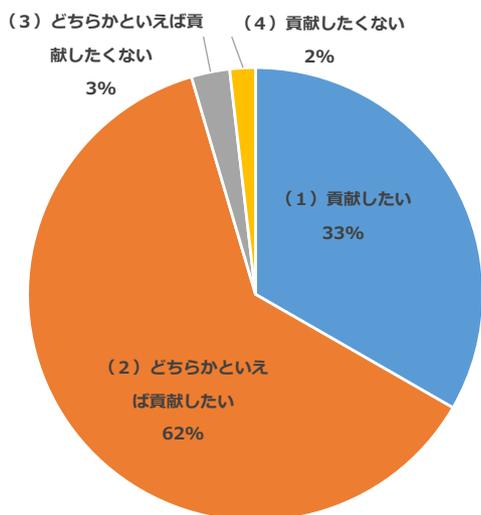
Q1. あなたは、環境全般について関心がありますか。（1つ選択）

（環境全般：大気環境問題、水環境問題、エネルギー問題、地球温暖化・気候変動問題、再生エネルギー利用、ごみ・リサイクル問題、自然環境、生物多様性保全、環境教育など）



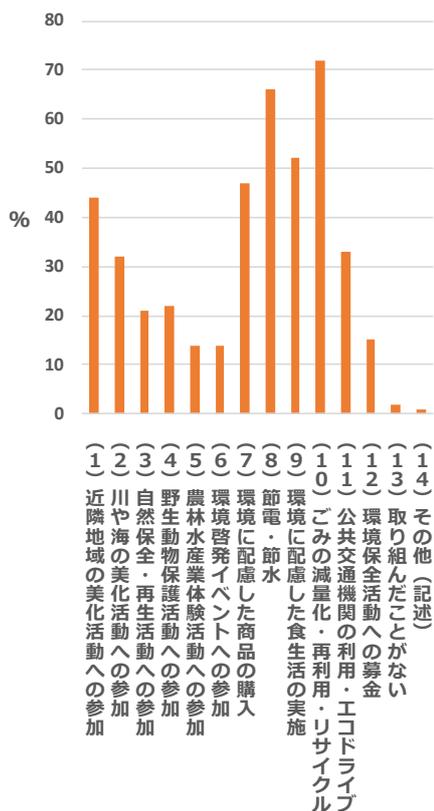
選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 関心がある	140	42
(2) どちらかといえば関心がある	148	45
(3) どちらかといえば関心はない	35	11
(4) 関心はない	7	2
合計	330	100

Q2. あなたは、環境保全に貢献したいと思いますか。（1つ選択）



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 貢献したい	110	33
(2) どちらかといえば貢献したい	205	62
(3) どちらかといえば貢献したくない	9	3
(4) 貢献したくない	6	2
合計	330	100

Q3. あなたは、身近な環境保全活動として、どのような取組に関心がありますか。（複数選択可）

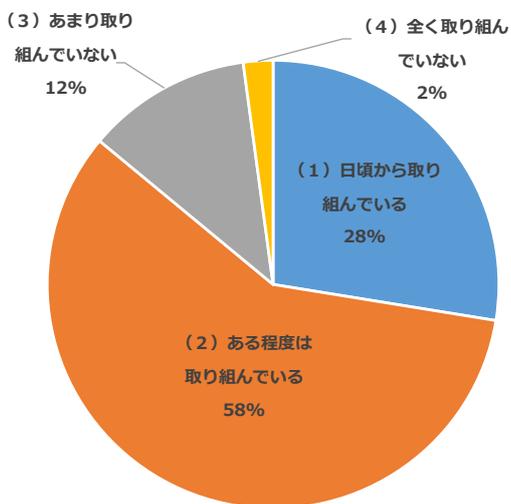


選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 近隣地域の美化活動への参加（例：市民清掃など）	145	44
(2) 川や海の美化活動への参加（例：水辺の清掃活動など）	105	32
(3) 自然保全・再生活動への参加（例：森林ボランティア、植栽など）	68	21
(4) 野生動物保護活動への参加（例：ホテルの保護など）	71	22
(5) 農林水産業体験活動への参加（例：稲刈り、木工教室への参加など）	47	14
(6) 環境啓発イベントへの参加	47	14
(7) 環境に配慮した商品の購入（例：詰替商品、簡易包装製品、省エネ製品など）	156	47
(8) 節電・節水（例：クールビズ・ウォームビズの取組など）	217	66
(9) 環境に配慮した食生活の実施（例：食材の地産地消、エコ・クッキング、食べ残しをしない（食べきり）など）	170	52
(10) ごみの減量化・再利用・リサイクル（例：ごみの分別、紙パックや食品トレイの回収、マイバッグ持参、レジ袋の辞退など）	237	72
(11) 公共交通機関の利用・エコドライブ	109	33
(12) 環境保全活動への募金（例：緑の募金、環境保全団体への寄付など）	50	15
(13) 取り組んだことがない	6	2
(14) その他（記述）	4	1

< (14) その他意見（一部要約） >

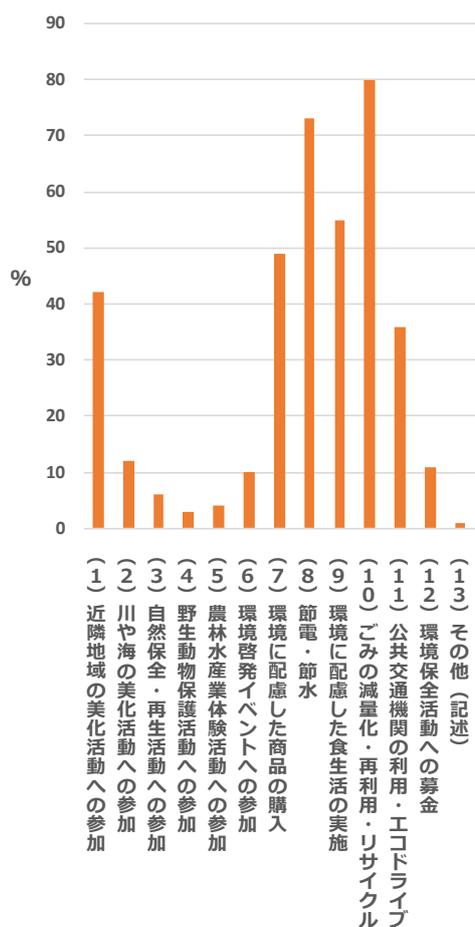
- ・ 原発を止めて、クリーンエネルギーに移行すること
- ・ 海砂採取問題
- ・ 原発廃止（結果的に大きなごみ処理問題となる～最終処理に多大な国民負担が強えられる～その資金があれば自然・環境問題に活用可能となるのでは） ⇒ 再生可能エネルギー普及拡充のための支援・啓蒙
- ・ 国や地方自治体、議会などへの環境保全活動に関する意見、提言

Q4. あなたは、現在、身近な環境保全活動（家庭での節電活動、ごみの分別やリサイクル、ごみ拾い、環境イベントへの参加など）にどの程度取り組んでいますか。（1つ選択）



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 日頃から取り組んでいる	91	28
(2) ある程度は取り組んでいる	193	58
(3) あまり取り組んでいない	39	12
(4) 全く取り組んでいない	7	2
合計	330	100

Q5. Q4で（1）又は（2）を選択された方にお伺いします。あなたは、身近な環境保全活動としてどのような取組をしていますか。



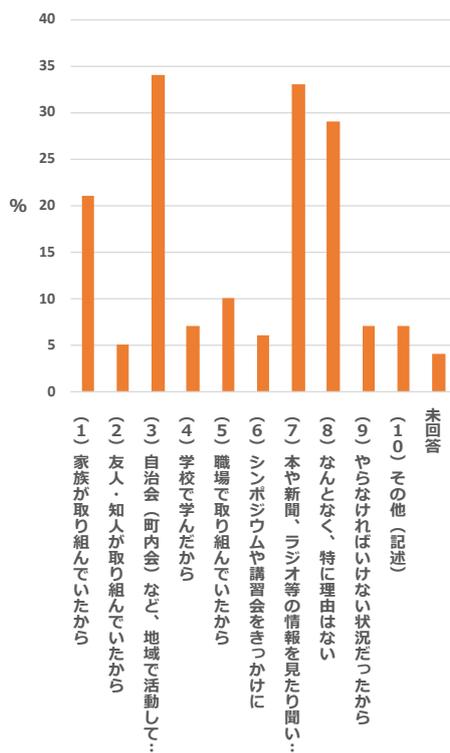
選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 近隣地域の美化活動への参加（例：市民清掃など）	119	42
(2) 川や海の美化活動への参加（例：水辺の清掃活動など）	34	12
(3) 自然保全・再生活動への参加（例：森林ボランティア、植栽など）	16	6
(4) 野生動物保護活動への参加（例：ホタルの保護など）	9	3
(5) 農林水産業体験活動への参加（例：稲刈り、木工教室への参加など）	10	4
(6) 環境啓発イベントへの参加	28	10
(7) 環境に配慮した商品の購入（例：詰替商品、簡易包装製品、省エネ製品など）	138	49
(8) 節電・節水（例：クールビス・ウォームビスの取組など）	208	73
(9) 環境に配慮した食生活の実施（例：食材の地産地消、エコ・クッキング、食べ残しをしない（食べきり）など）	155	55
(10) ごみの減量化・再利用・リサイクル（例：ごみの分別、紙バックや食品トレイの回収、マイバッグ持参、レジ袋の辞退など）	228	80
(11) 公共交通機関の利用・エコドライブ	101	36
(12) 環境保全活動への募金（例：緑の募金、環境保全団体への寄付など）	32	11
(13) その他（記述）	4	1

※割合 (%)：回答対象者 284 人を 100 とした時の割合

< (13) その他意見（一部要約） >

- ・原発廃止 ⇒ 再生可能エネルギー普及拡充のための支援・啓蒙
- ・干潟の役割などの啓発を子供たちに伝える活動
- ・ゴミ拾いながら歩くこと
- ・農業における除草剤不使用、化学肥料不使用。可能な限り農業もつかわない

Q6. Q4で（1）又は（2）を選択された方にお伺いします。身近な環境保全活動に取り組むきっかけに近い理由は次のうちどれですか。（複数選択可）



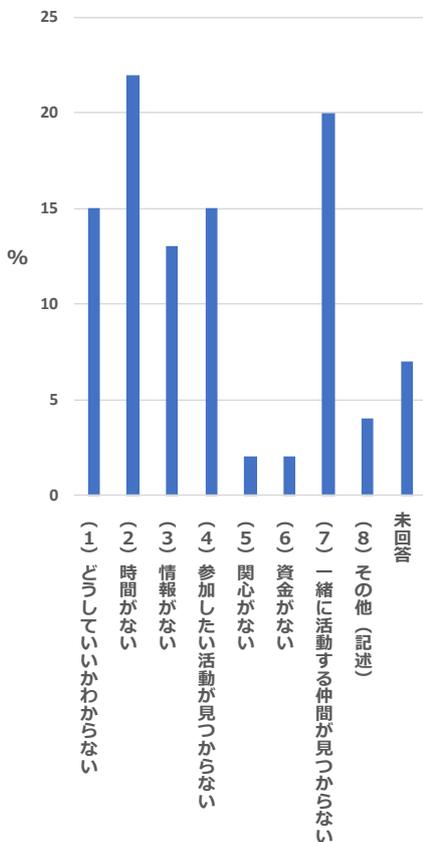
選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 家族が取り組んでいたから	59	21
(2) 友人・知人が取り組んでいたから	14	5
(3) 自治会（町内会）など、地域で活動している団体が取り組んでいたから	96	34
(4) 学校で学んだから	20	7
(5) 職場で取り組んでいたから	29	10
(6) シンポジウムや講習会をきっかけに	17	6
(7) 本や新聞、ラジオ等の情報を見たり聞いたりして	93	33
(8) なんとなく、特に理由はない	83	29
(9) やらなければいけない状況だったから	20	7
(10) その他（記述）	19	7
未回答	12	4

※割合 (%)：回答対象者 284 人を 100 とした時の割合

< (10) その他意見 (一部要約) >

- ・地球が大切だから、地球に優しい環境づくりに貢献したいと思ったから (2)
- ・長崎の町が好きだから、いつも綺麗な所であってほしい
- ・子供たちのために (よりよい環境にしたい、よりよい環境を残してあげたい、綺麗な環境のままの日本を残したい など) (4)
- ・この子達の将来のため (使い捨ての世の中にするのではごみだらけになってしまう。各自で分別リサイクル、リユース、すること、過剰な包装サービスはいらぬ、もらわぬ精神をもって我が子の将来がいかにかに良くするかは、私たちの行いにかかっているのではないか。)
- ・子育てをしており、いい環境で育てたいと思うから (自分出来る範囲で取り組み、家の回りにホテルの飛ぶ今を守りたいと考えている。)
- ・2011年東北大地震での被ばく、黄砂、温暖化、気候変動、生態系のゆがみ等を考え、子供・孫の為に出来ること、そして、自分がすぐに出来ることは身近な環境問題に少しでも有益な行動をすることなどと思っている。
特に、原発は懸念される。
- ・「開発」という名で、公共工事が環境破壊している現状から脱却するための方策として
- ・家庭菜園を通じ、生野菜ごみのたい肥作りに取り組んだのがきっかけ。
- ・家の前が海岸で、リビングの一部のような感覚だから
- ・生活費などの節約 (2)
- ・再エネ関連業務に関与しているから
- ・自治体で取り組んでいるから
- ・環境保全活動は当然のこと
- ・理由は無い

Q7. Q4で(3)又は(4)を選択された方にお伺いします。身近な環境保全活動に取り組んでいない理由として最も当てはまるものを選んで下さい。(1つ選択)



選択肢	回答数	割合 (%)
(1) どうしていいかわからない	7	15
(2) 時間がない	10	22
(3) 情報がない	6	13
(4) 参加したい活動が見つからない	7	15
(5) 関心がない	1	2
(6) 資金がない	1	2
(7)一緒に活動する仲間が見つからない	9	20
(8) その他 (記述)	2	4
未回答	3	7

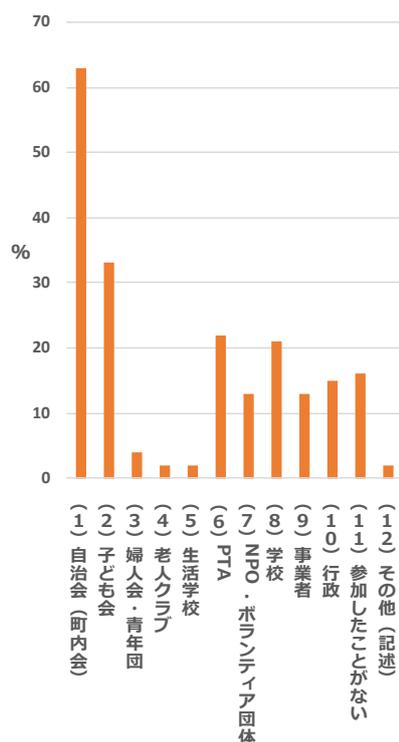
※割合 (%) : 回答対象者 46 人を 100 とした時の割合

< (8) その他意見 (一部要約) >

- ・性格的に、集団に属することを好まない。
- ・優先順位が低い。環境保全は大事と分かっているけど、果たしてそれが自分の生活にどう影響するのか、その情報をわざわざ取りに行こうという発想がなかった。自分や家族に必要ななら、時間がなくても情報は自ら取りに行き、参加していると思う。

Q8. あなたは、これまでに、どのような団体の環境保全活動に参加したことがありますか。

(複数選択可)

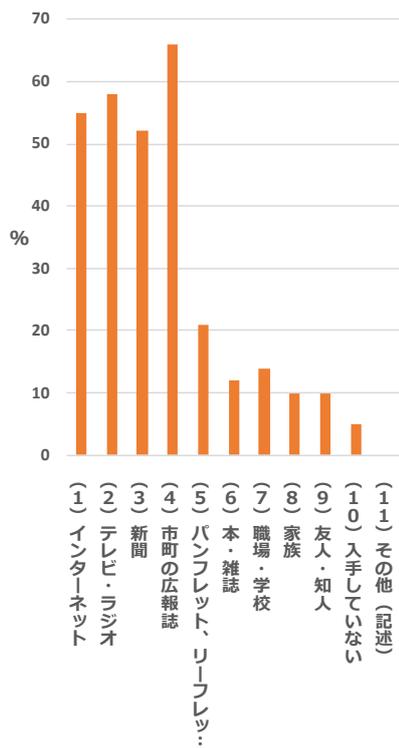


選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 自治会(町内会)	207	63
(2) 子ども会	110	33
(3) 婦人会・青年団	12	4
(4) 老人クラブ	5	2
(5) 生活学校	7	2
(6) PTA	71	22
(7) NPO・ボランティア団体	43	13
(8) 学校	68	21
(9) 事業者	42	13
(10) 行政	49	15
(11) 参加したことがない	54	16
(12) その他(記述)	7	2

<(12) その他意見(一部要約)>

- ・赤十字
- ・生協
- ・グリーンコープでのリユースの実施。市による資源ごみの回収時に資源ごみ出し。
- ・自分達で作った親子サークル
- ・団体に所属しないで出来るエコ活動を実施
- ・ボーイスカウト
- ・FM長崎による海岸清掃に参加

Q9. 環境に関する情報を入手する際に活用する媒体は何ですか。(複数選択可)

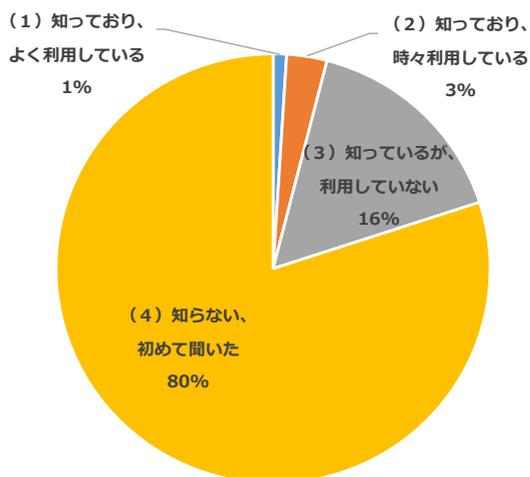


選択肢	回答数	割合 (%)
(1) インターネット	182	55
(2) テレビ・ラジオ	193	58
(3) 新聞	172	52
(4) 市町の広報誌	217	66
(5) パンフレット、リーフレット、ポスター	70	21
(6) 本・雑誌	41	12
(7) 職場・学校	47	14
(8) 家族	34	10
(9) 友人・知人	34	10
(10) 入手していない	18	5
(11) その他(記述)	1	0

<(11) その他意見>

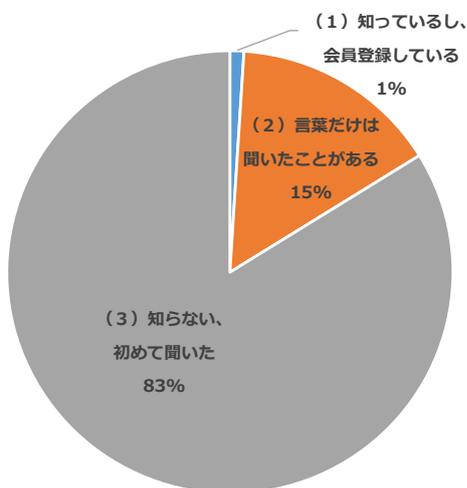
- ・妻

Q10. あなたは、県が運営する環境学習総合サイト「環境活動 e ネットながさき」を知っていますか。(1つ選択)



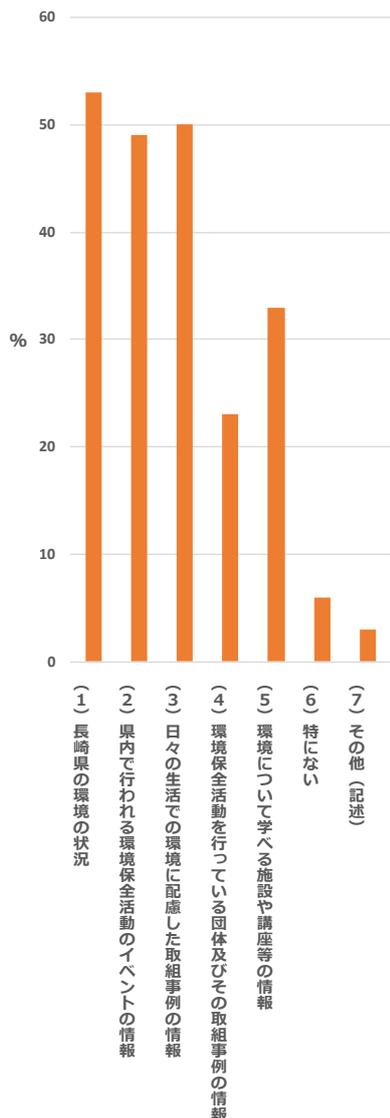
選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 知っており、よく利用している	3	1
(2) 知っており、時々利用している	11	3
(3) 知っているが、利用していない	52	16
(4) 知らない、初めて聞いた	264	80
合計	330	100

Q11. あなたは、県内の環境団体や学校、環境に興味がある県民等を会員として県が運営する「ながさきグリーンサポーターズクラブ」を知っていますか。(1つ選択)



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 知っているし、会員登録している	4	1
(2) 言葉だけは聞いたことがある	51	15
(3) 知らない、初めて聞いた	275	83
合計	330	99

Q12. 環境に関するどのような情報が役立つと思いますか。(複数選択可)

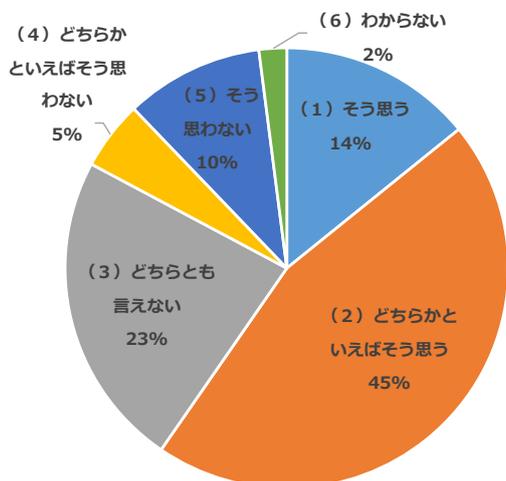


選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 長崎県の環境の状況	175	53
(2) 県内で行われる環境保全活動のイベントの情報	163	49
(3) 日々の生活での環境に配慮した取組事例の情報	165	50
(4) 環境保全活動を行っている団体及びその取組事例の情報	77	23
(5) 環境について学べる施設や講座等の情報	108	33
(6) 特にない	19	6
(7) その他(記述)	10	3

< (7) その他意見 (一部要約) >

- ・環境状況が昔と比べてどうなっているかの現状を知りたい。(昔より良くなっているような気がしないので)
- ・地球規模でどういう状況か知りたい。
- ・ゴミ、汚染物質がどのように悪影響を与えるかを教える。
- ・諫早干拓調整池の水質は、とても悪いのではないかと気にかかる。
(浄化はしているのか、収穫野菜に問題が無ければよいが。)
- ・子供と一緒にできる、情報
- ・身の回りや近所での身近な実践事例
- ・生活に根ざしたエコ活動の取り組みの具体的方法
(環境部職員が各学校を回り、ペットボトル、空き箱、ビニールが付いたティッシュ箱等のリサイクル、仕方を見せる。子供にも空き箱や中身を洗ったペットボトルを持って来てもらい実際にラベルをはがすなど体験として情報を吸収できるようにする。空き箱などは一度山積みして、その後にはベツチャンコにして積み重ねたら、潰すと量が減ることを視覚的に実感しやすいのではないか。)
- ・県独自の取組をアピールしてもらえれば関心も深まる。(長崎市から出される情報もあり、やはり主婦としては身近な情報に関心が向く。県となると地域的にも範囲が広く、他人事のような感じになる。)
- ・環境保全の取組を通して、何かしら参加者が得するものがあるという情報があれば、参加者は増えて環境保全を続けているのでは。
(例、参加者同士の横の繋がりを持てる活動イベント)
- ・わからない。

Q13. あなたは、10年前と比較して、今の社会は環境に配慮した社会になったと感じますか。(1つ選択)



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) そう思う	47	14
(2) どちらかといえばそう思う	150	45
(3) どちらとも言えない	75	23
(4) どちらかといえばそう思わない	18	5
(5) そう思わない	33	10
(6) わからない	7	2
合計	330	99

Q14. お住まいの地域で環境保全活動や環境教育に取り組んでいる団体の情報など、ご自由にご記入下さい。(記述式)

環境保全活動や環境教育に取り組んでいる団体として、学校、自治会・町内会、子供会、老人会、その他の地域活動団体、事業者、行政等についての情報提供がありました。

また、

環境保全活動に関する自らの取組状況

環境行動、環境意識について

その他環境全般に関する意見

アンケート全般に関すること

等についてご意見がありました。

今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。